

## 普及現地情報

発信年月日：平成2年(2020年)8月25日  
所属名：大津・南部農産普及課  
番号：A20005  
部門分類：170(花き)  
発信者名：布施

### 大津・草津市産の花で組んだ、色鮮やかなお盆用仏花が販売される

認定新規就農者としてN氏(41歳)が、大津市<sup>かつらがわかした</sup>葛川坂下町の自作地7aと借入地4aで農業を始めたのが6年前のこと。葛川地域は坂下町を含め8集落ありますが、総人口237人、過疎化と獣害が多発する中山間地域です。

耕作放棄地を有効活用し、ナス、ミニトマト、ミョウガ、クレソン等の露地野菜をメインに経営面積を拡大させ、収益が向上するよう支援を行ってきましたが、日照時間が短く、地力も低く、獣害柵が必須となるため、就農計画の達成が非常に難しい状況です。

解決策の一つとして当課がリンドウ栽培を提案し、昨春に400本、今春に1,000本の苗を定植され、面積は300㎡となりました。さらに、このリンドウに付加価値をつけるべく、お盆用仏花の作成を提案しました。単品で卸売市場へ出荷した場合1本当たり40円程度の単価ですが、仏花(写真下)に加工し直売すれば付加価値がつき70円の高値となります。

必要な花材である、黄色と赤色の小菊、ホオズキは自家生産し、<sup>しきみ</sup>櫛は自宅周辺に自生している枝を採取、白色中輪キクと紫色アスターは管内の花き専業農家から調達されました。今年は100束と試作程度でしたが、大津市内2か所の直売所ではその美しさが際立ち好評でした。

当地域は、「やまの健康」推進事業の対象で、過疎化に歯止めをかけるという大きな目標があります。その中で、『仏花作成には多くの労力が必要なため、N氏が高齢者を雇用すれば地域が活性化し、1束450円以上で販売すれば、雇用経費(時間給950円程度)は捻出できる。』と提案しています。

N氏が、来年はオール葛川産の花材で色鮮やかな仏花を作成することに意欲を示されていますので、今後は少量土壌培地耕での中輪キクとアスター栽培を推進します。



家族と仏花づくりをするN氏  
(左上写真の中央)



高齢者の協力により完成した直売所向け仏花(右写真)



初めての取組であり、1束の作成に5~6分を要したため、100束作成には9~10時間が必要。